

INTER SECTION

[インターTOMAS会員のための英語情報誌 インターセクション] ■ NEWS & TOPICS - 02 | 激変する英語教育と英語学習の本質 ■ FEATURE - 04 | 特集インタビュー

特集
インタビュー

私の英語学習 ターニングポイント

VOL. 02
INTERSECTION
..... 交差点
英語の最新情報が行き
交う[交差点]のような
雑誌をめざします。

英語学習を行う中で、誰もが壁にぶつかったり、思い悩んだりしたことがあるはずです。

そうした苦しい時期を突破したきっかけや、

成果を上げるまでの道のりについて、インターTOMAS会員生に聞いてみました。 [4ページより](#)

The important thing is to gradually build speaking confidence by using even simple English both in and out of the classroom at any given opportunity.



インターTOMAS 国立スクール
Tim 先生

■ PROFILE

イギリス出身。韓国語、日本語をマスター。幼児から社会人まで幅広く担当し、学習者の身になった指導が好評の人気講師。

Read and watch content that interests you. You can pick up new words as well as review the most commonly used ones and have fun.



インターTOMAS 市ヶ谷スクール
Gayner 先生

■ PROFILE

イギリス出身。大学で日本語とTESOLを勉強後、東京に留学。日本文化が好きで、ギターと日本語の勉強を日々楽しむ。

Finding ways to make English fun is important. By playing games, learning many subjects in English, or reading books for fun you will improve faster.

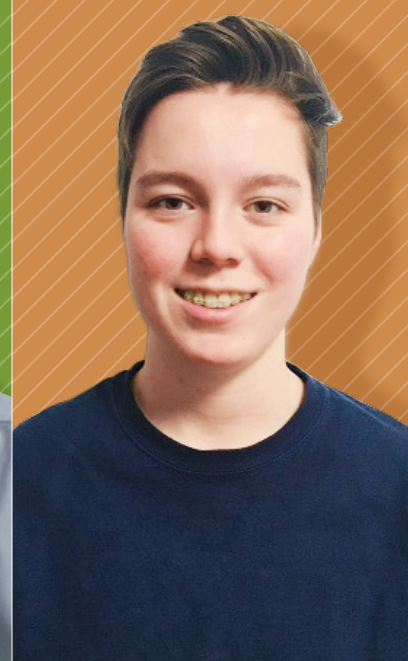


インターTOMAS 目黒スクール
Tony 先生

■ PROFILE

アメリカ出身。経験豊富で生徒が飽きないように、さまざまなアクティビティをレッスンに取り入れている。

Improve your listening and speaking skills by immersing yourself in an international environment. And more importantly, be curious and always ready to learn.



インターTOMAS 荻窪スクール
Marcia 先生

■ PROFILE

カナダ出身。会話から英検対策、定期試験対策まで幅広く指導。生徒の状況を把握し、必要に応じて複数のテキストを使用するスタイル。生徒からの信望が厚い。

今回のテーマ

激変する英語教育と 英語学習の本質

大学入試改革やその先を 見据えた英語学習とは

小学校での英語必修化や大学入試での英語4技能評価など、英語教育に大きな変化が来ています。大学入試に必要な英語量や具体的な英語力の身につけ方について、エリア・マネージャーの石田誠さんにお聞きました。



インターTOMAS
目黒スクール
エリア・マネージャー
石田 誠

—小学校からの英語必修化は どのように実施されますか？

従来、小学5年生で「外国語活動」という体験型学習が行われていましたが、2018年からは小学校3～4年生で年間35コマ、5～6年生からは年間70コマの英語の授業が段階的に開始されることになります。2020年からはすべての小学校で必修化が予定されています。5年生からは「モジュール学習」といって短い時間を活用して、英検4～5級レベルの授業が行われるようです。小学校卒業までに約600～700個の単語習得を目標とし、中学校で学習する内容を前倒しにした授業が行われ、中学校で学ぶ内容の土台を築きます。

—中学校の授業にも変化が あるのでしょうか？

「読む」「書く」「聞く」に加えて、英

語で質疑応答したり、自分の意見を発表したりすることで、「話す」（対話・発表）能力を育成していきます。また、多くの中学校では「英語で授業を行うことを基本とする」というダイレクトメソッドの指導を取り入れる方向性がありますが、むしろ逆効果になるのではという懸念があります。

—大学入試改革では 4技能が問われます。

すでに早稲田大学や上智大学などでは、TEAPやTOEICなど外部の資格試験のスコアによって、英語の試験が免除になる制度があります。高校2年生までに十分なスコアを取ることができれば、あとは英語に時間を割くことなく、他の教科だけで受験ができるので大変有利です。しかし、これらの資格試験は、非常に高度なリスニング力やスピーキング

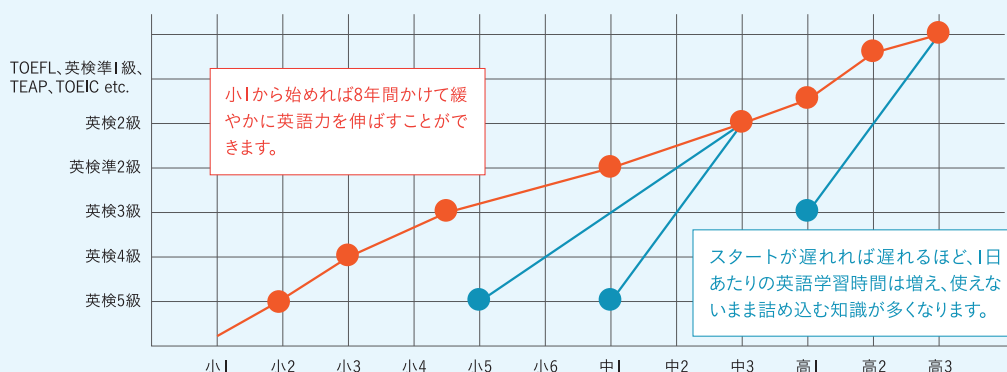
力が求められるため、従来の日本の英語教育では絶対的な単語量の不足、英語量の不足が問題になっています。

—求められる英語量は どれくらいですか？

例を挙げますと、英語圏の10歳の子どもの英語力を考えた場合、1日に5.5時間の英語のシャワーを浴びたとすると、10年間では約2万時間の英語の蓄積となります。なぜ10歳の子どもの英語力なのかというと、英語圏の10歳の子どもの単語量は約1万5千語とされています。この量は日本の難関大学の受験生と同レベルの単語力に相当するからです。この2万時間という英語量に対応するには、学校の授業に週1回の英語スクール通いをプラスしても、80年以上かかるという計算になります。

英語は、早くから無理なくコツコツと！

早めのスタートで段階的に英語力を身につける！



—具体的にどのような対策が必要ですか。

他の科目に比べて英語の配点は高く、難関校でも英語の配点が200点、他が100点で2倍の配点になっています。英語で高得点を取ることで他の科目は5割でも合格点に達することができます。

また、英語は安定した点数を出すことができる科目です。中学レベルの英文法で土台を固めてから、高校で習う話法や仮定法、分詞構文を学習し、英単語、熟語をしっかり身につけて英文解釈を学習することで、安定して点数が取れるようになります。

—英語学習を始める上で大切なことは？

受験で英語を有利に活用し、将来の仕事にも活かせるような英語スキルを身につけるためには、グラフの赤い線のように早めにスタートを切り、無理なく学習することをおすすめします。例えば、小学1年生から始めるのと中学1年生から始めるのでは、1日の学習量が増えて、いわゆる詰め込み型の学習になり、負担がかかります。一時的に単語量や知識が増えても、将来まで使えるような持続性はないでしょう。

ただし、単にスタートが早ければよいというものではありません。段階を踏むことが重要です。まず「単語の読み方のルールを身につける」ことです。インター TOMASではフォニックスという英語の読み方のルールを最初に習います。これが身につけば、意味がわからなくても正しい発音で読むことができ、やがて単語の意味がわかって理解できるようになります。これは、英語圏の人であれば当然身につけているものです。次に「fluency(流暢性)重視の学習」です。これは単に発音が良いという意味ではなく、音読や聞き取りを繰り返して、英語の情報処理能力を高めるといえるものです。万単位で単語や文法の知識を持っても、英語が使えない・話せないというのは、このfluencyの欠如が原因です。大きな知識量を支えるには、しっかりした土台を作ることが必要です。

—身につけた英語力を持続させるには？

かつては、fluencyを確立するには留学などで一定期間、日本語をシャットアウトするしかないと言われていました。しかし、テレビの基礎英語やラジオ英会話などを利用して、数年間欠かさず学習したことで英語を使いこなす方がいるように、毎

日継続して学習することがfluencyの確立に大変有効です。毎日の継続は学習効果が複利計算で高まっていきますので、一日も欠かさないことがポイントです。

—毎日の学習時間の目安はどれくらいでしょうか

1年で1,000時間という学習時間を意識してほしいと思います。1日の時間に換算すると2.75時間ですが、1日30分という日があっても構いません。その代わり、まとまった時間が取れる日には集中して学習を行うなど調整をしましょう。1,000時間まで達することができればエクセレントですが、1,000時間を意識した結果、700～800時間の学習量になったとしても十分に成果があります。

また、ロケットスタートとして学習を始めてから3カ月くらいは、他の習い事を控えて英語に集中するというのも効果的な方法の一つです。目標としては、中学3年生までに英検2級を合格点ギリギリではなく、ほぼ満点で合格することを目指しましょう。このペースでこのレベルまで到達できれば、そこから先は毎日の学習継続のみの大変少ない時間で英語の基礎力やfluencyを継続して保つことができ、英語入試で有利な状況になるはずです。

中1で英検2級、小3で英検3級合格！

高野さんご姉弟の

Turning
Point!!

準1級突破のために全力投球中！

TOEFLにも挑戦したい！

●中学2年生
高野 日向子さん
●小学3年生
高野 匠君

インターTOMAS
国立スクール

Teacher's voice

田中 勝 先生

日向子さんは個人レッスンを中心にアウトプットの機会を増やし、匠君はフォニックスを強化して英語に慣れる授業を組みました。また、英語力を測るために英検受験も促しました。



英検2級
合格までの
軌跡

英語学習
スタート

● 3歳

インターTOMASに
入会

● 小5

リスニングが
得意になる

● 小6

英検2級合格！

● 中1

英検準1級を受験中

● 中2



英検3級
合格までの
軌跡

インターTOMASに入会
フォニックスを学ぶ

● 小2

英検5級、4級合格

インターTOMAS
スピーチコンテスト受賞

● 小3

英検3級合格！

Interview

発話量を増やしたことで 姉弟そろってリスニングが大得意に

学生のころ、英語の勉強で大変な思いをした経験から、子どもには同じ思いをさせたくない、というお母様の思いで、3歳から英語学習を始めた姉の日向子さん。インターTOMASに入会したのは小学5年生のとき。それまでは別の英会話スクールに通っていましたが、インターTOMASの体験授業を受けたことがきっかけでした。「それまでは日本人の先生だけにしか習っていなかったのが、インターTOMASで初めてネイティブの先生に習えたことがとても楽しくて」と日向子さん。「授業はPRレッスンを含めてほぼ毎日通っています」。国立校は集中学習するのにベストな環境で、毎日2～3時間は勉強しているそうです。

そんなお姉さんの姿を見て、英語に興味を持った匠君も1年半前に入会。「最初は英語をしゃべるのが恥ずかしかった」と話す匠君は、わずか1年半で英検5級、4級、3級に次々と合格。初めての英語に緊張しながらも、まずはフォニックスのルールをしっかり身につけたことと、さらに個人レッスンでリスニング力を鍛えたことで合格できたと言います。「TOEFLにも挑戦したい」と、苦手なライティングの勉強にも力を入れ、毎日の英単語暗記も欠かしません。

学校の英語のテストで帰国子女クラスの子を抑えて学年1位を獲得した日向子さんは、中学1年生で英検2級に合格。「個人レッスンで先生と会話をしていくうちに、自然にリスニング力とコミュニケーション力かなり身につきました。リスニングが得意になったのも、個人レッスンでたくさん発話できたからだと思います。得意のリスニングとライティングを強みに、英検2級まで順調に合格を重ねてきましたが、準1級では苦戦が続いているそう。「日本語で読んでも難しい専門的な単語や、長文読解の内容が難しく、なかなか突破できません」と、毎日覚えているという単語帳を見せてくれました。「長文読解が合格の鍵になるので、できるだけ様々な長文に取り組んでいます。今度こそ準1級を突破します！」と力強い笑顔が印象的でした。

My Memory

高野家で毎日実施される
英単語テスト用の英単語帳

お母様発案の英単語テストの
ノルマは毎日1ページ。間違えると
バツ印がつき、バツが多いと食後の
デザートはなし、というルール。



高2で、TEAP7割を突破！

森田 一君の
Turning
Point!!志望校が決まって具体的な
目標ができた！

●高校2年生
森田 一君

インターTOMAS
横浜スクール

Teacher's voice

森 秀和 先生

非常にまじめな一君。自分で納得したことにはとことん取り組むタイプなので、なぜ今この勉強や対策が必要なのかを伝えることで、より集中して勉強を進められる環境を作りました。

TEAP7割
超えまでの
軌跡

一君の

世界一周を
夢見る

● 小1

英語の音楽や映画に
興味を持つ

● 小6

インターTOMASに
入会

● 中1

志望校決定

● 高1

TEAP7割を突破！

● 高2

Interview

夢は世界一周！
英語を通して広がる選択肢

幼少期から海外への関心が高かった一君。「小学1年生のときにはもう、作文に『世界一周したい』って書いているんですよ(笑)」というだけあって、英語学習はすっかり日常に溶け込んだルーチンなのだそう。「他国の文化やマナーに興味があるので、英語を身につけて世界のことを知りたいです」。そんな一君がインターTOMASに入会したのは、中学1年生のとき。受験を控えていた英検3級の二次試験を見据え、英語のコミュニケーションスキルを鍛えたいと入会を決めました。当時を振り返り「それまでは手当たり次第に勉強をしていましたが、インターTOMASでは僕の苦手な分野にフォーカスして対策を提案してくれました」。

元々勉強熱心な性格もあいまって、特に英会話においてはめきめきと力を伸ばしていった一君がつまずきを感じたのは、中学1年生の秋。気軽な気持ちで受験した英検準2級の不合格通知を受け、単語や文法的重要性に気づかされます。単語帳を見て淡々と勉強することに苦手意識がありましたが、「ニュースの記事などからわからない単語をピックアップして覚えていった」ことで翌年の1月には見事合格を勝ち取りました。

高校に進学すると、大学受験を視野に入れて勉強するように。第一志望校を上智大学に定めると、森先生からTEAPの受験を勧められまし

た。TEAPスコアの有効期限は2年度。早めに基準スコアを満たしてしまえば、他の受験科目に集中できるため、合格のチャンスを増やすことができます。「目標が具体的になり、やる気が出た」という一君は、TEAPならではの出題形式に対応するため土曜日をTEAP対策講座の時間に充てるように。「問題を速く効率的に解くテクニックと、問題を解きつつ知識を蓄えていけるような勉強法を教えてもらいました。特にテクニックに関しては、独学では絶対にわからなかった部分だと思います」。結果的に、1回目の受験にして志望校の基準スコアをクリアすることができました。

英語に関してはこれで一安心かと思いきや、「最近クラスメイトに、英語の成績を抜かされてしまったんです」と悔しげな一君。「でも、努力で越えられてしまった部分は、努力で巻き返すことができるので、一層取り組もうと思いました」と向上心は尽きません。

My Memory

QUEENの楽曲
“Bohemian Rhapsody”

英語への関心が一気に高まったという1曲。一度聞いたら忘れられない、パンチの効いた歌詞がお気に入り。



高1で、**準1級**に合格！谷口 萌さんの
Turning
Point!!二次試験不合格の通知で
やる気に火がついた！

●高校1年生
谷口 萌さん

インターTOMAS
荻窪スクール

Teacher's voice

西村 展和 先生

自由な発話力をつけるためにMS（個人）レッスンとPRレッスンを徹底した後、リーディングやディスカッションなど発展的なカリキュラムを設定。英検準1級への学習を契機に英語力が高まりました。



萌さんの

英検準1級
合格の
軌跡

英会話を
習い始める

● 小2

お父様の転勤で
1年間イギリスへ

● 小5

インターTOMASに
入会

● 中1

英検準1級
一次試験合格

● 中3

英検準1級
二次試験合格！

● 高1

Interview

悔しさをバネに勝ち取った
英検準1級合格

萌さんが英会話を習い始めたのは、小学2年生のとき。何気なくやっていただけという英語学習でしたが、小学5年生になるとお父様のイギリス転勤が決定し、状況が一変します。「始めたのが早かったので、日本の学校では英語ができる方でした。でも、イギリスに行ったら全然違って…自分はまだまだなんだと知りました」。お母様に現地校を勧められたものの、「勇気が出なくて日本人学校を選んだ」と言う萌さん。それでも、「まわりに常に英語があふれている環境は新鮮でした。テレビもよく見ていたので、自然とニュースのリスニングなどもしていたと思います。行く前は不安でしたが、振り返ると本当に楽しい1年でした」。

帰国してまもなく、中学校へ進学。夏には、せっかく上達した英語力を維持したいと、インターTOMASへの入会を決めました。レッスンを受けて感じた課題は、語彙力の不足。「言いたいことがあるのに、単語が思い浮かばなくて伝えられず、もどかしかった」ことから、レッスンで取り扱った英文の中でわからない語彙をピックアップし、関連語を一緒に覚えたり、接頭語の意味を調べたりと工夫を重ねます。また、内気な性格も英会話においては障壁になったと言い、「間違ってもいいから話してごらん、と言われるのですが、いざとなるとどうしても『何を言えばいいのかわ

からない!』と焦ってしまっ。場数を踏むうちに少しずつ自分からも話せるようになってきましたが、やっぱりアウトプットの場を持ち続けることが大切なのだと再確認しました」。

英検準1級の受験を決めたのは、インターTOMASの先生に勧められて。「正直、まぐれだったと思うのですが…」と謙遜する萌さんですが、一次試験に一発合格できたのはコツコツと勉強を積み重ねてきたからこそ。その分、「二次試験で落ちたときは、英語を勉強してきて初めて『悔しい!』と思いました」。そこから一念発起し、昨年ついに二次試験合格を果たします。

次の目標は? という問いには、「目の前の目標は大学受験。長い目では、アウトプットの場をずっと持っていたいなと思っています。英語でコミュニケーションを取ることは、純粋に楽しくて好き。勉強しているという感覚がないので、続けてこられたのだと思います」。

My Memory

イギリスから帰国する際にもらった
メッセージカード

日本人学校に通っていたお友達や先生からのメッセージ。時折見返すと、イギリスで得た経験や思い出が蘇ります。



小4で、英検準2級に合格！

吉川 美和さんの

Turning
Point!!異文化をもっと知って
コミュニケーションを深めたい！

●小学5年生
吉川 美和さん

インターTOMAS
目黒スクール

Teacher's voice

戒能 真佐子 先生

小学2年生で入会した頃から抜群の吸収力を持っていた美和さん。英検という目標を持ってからは一段と成長し、海外のお友達やクラスの仲間との交流を楽しみながら、“生きた”英語力を伸ばしています。



美和さん
の

英検準2級
合格までの
軌跡

小学校で英語の
授業開始

● 小1

インターTOMASに
入会

● 小2

海外のお友達
ができる

● 小3

英検準2級に
合格！

● 小4

英検2級に
挑戦中

● 小5

Interview

いつでもチャンスをつかめるよう
今から英語を身につける

小学4年生で英検準2級に合格し、現在は英検2級に挑戦中という、非常に優秀な美和さん。しかし、インターTOMASに入会したきっかけは「学校の英語の授業についていけなくて」という意外なものでした。「学校では、『こんにちは』は、『ハロー』と言います」と習います。でも、なぜハローなのだろう？ というところは説明してくれない。そんなふうに小さな『なぜ』が積み重なって苦手意識が生まれてしまったのです。

初めてのレッスンは「とにかく緊張した」と振り返りますが、元々物語が大好きという美和さんは、加圧式音読(PR)レッスンでイソップ童話やアンデルセン童話を取り上げるとすっかり夢中に。半年前に取り組んだという赤ずきんちゃんのストーリーを「まだ覚えている」と言い、非常に流暢な発音で披露してくれました。

初めは純粋に英語を楽しんでいた美和さんですが、あることをきっかけに向上心が刺激されます。「先生の姪子であるパーカーちゃんが日本に遊びに来て、一緒に浅草を案内したときのことです。英語で話していたのですが、何回か聞き返されてしまいました。伝えたいことをきちんと表現できないもどかしさを実感し、もっと知識をつけたいと思ったのです。」

また、ペースメーカーとして受験してきた英検でも、初めて壁にぶつかり

ます。「準2級からは難易度がぐっと上がります。文法の勉強をしなくてはならなかったけれど、教科書を読むだけの勉強はピンとこなくて…」そこで、戒能先生の工夫が光ります。普段音読している文章を例に『この文章は実は、こういう構造になっているよ』と補足していく方法を取りました。さらに、あくまで“生きた英語”にこだわり、最終的には音読を繰り返すことで知識を定着させていったのです。その結果、見事合格を果たしました。

「人間に関することが好き」という美和さんの夢は、医学の道へ進むこと。「いつか海外へ行き、実力主義なカルチャーの中で挑戦したい」と野心家な一面をのぞかせます。「英語が話せれば、どの国に行っても通用する。チャンスが来たときに語学を理由に足踏みするのはもったいないので、今のうちにしっかり身につけたいと思っています。」

My Memory

志望校の名前が刻まれた
ボールペン

お友達と訪れた東大の学園祭で購入。常にその名を目にすることで、勉強のモチベーションを高めています。



知っておきたい キーフレーズ

PHRASE

02

一見、簡単そうな表現でも、意外とスツと出てこない英語の

フレーズをご紹介します。知っておくと、自然な会話ができますよ!

レストラン オーダー編

「おすすめを教えてくださいか？」

レストランにやってきたあなたは、料理をオーダーしようとしています。ウェ이터に、
おすすめの料理を聞きたい! そんなとき、何と伝えればいいでしょうか?

ウェ이터 — : May I help you?

(お決まりでしょうか?)

私 — : I've been watching my carbs. What would you recommend?

(糖質制限をしているので、おすすめを教えてくださいか?)

ウェ이터 — : Then I would suggest "Today's special salad" and
"T-bone steak".

(それでしたら、今日の特選サラダと骨付きステーキがおすすめです)

私 — : Sounds good! I'll take it.

(おいそうですね! それをお願いします)



今回のキーフレーズ

What would you recommend?

(おすすめを教えてくださいか?)

このフレーズは他にも観光やショッピングなど、
さまざまな場面で応用することができます。
海外の店員さんは、気さくにおすすめしてくれることが多いので、
ぜひ使ってみてください。

ワンポイント

おすすめを聞く前に要望を
伝えたいときは...

- She is allergic to wheat.
(彼女は小麦アレルギーがあります)
- I just want to get a bite to eat.
(軽く食べたいのですが)
- I'd like to eat some seafood.
(シーフードが食べたいです)

インターTOMAS 池袋スクール
Lazario先生



池袋 ② 03-3981-3769

国立 ② 042-580-1369

目黒 ② 03-3492-3759

市ヶ谷 ② 03-5215-3769

渋谷 ② 03-3492-3759 (目黒スクール管轄)

横浜 ② 045-317-3769

荻窪 ② 03-5347-3759

※2018年春、大崎と吉祥寺に新しいスクールを開校予定!

<https://www.inter-tomas.com>



リソー教育グループ ● インターTOMAS はリソー教育グループです。

※本誌の無断転載を禁じます

○ 2018年2月28日発行 通巻2号 ○ 発行: インターTOMAS